

稲作情報 No.19

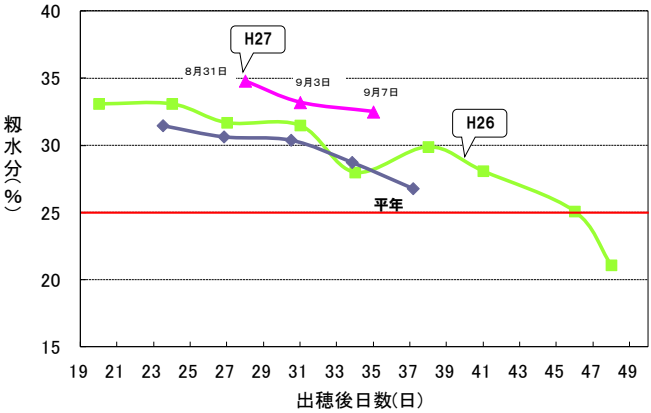
〔9月7日水稻登熟状況・大麦圃場準備・大豆防除〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA中央会、JA経済連、主要農作物振興協会）

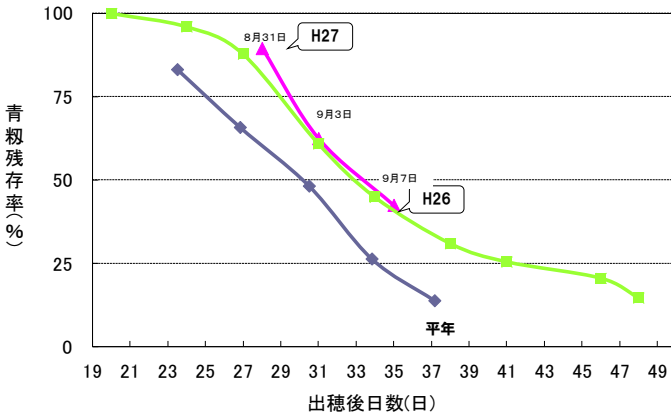
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html>

- ・地域で籾水分を測定して適期収穫に備えましょう。
- ・大麦を播種する圃場では、稲刈りが終わりたい、排水溝を設置しましょう。
- ・大豆圃場でカメムシ等の害虫が多い場合は防除を行いましょう。

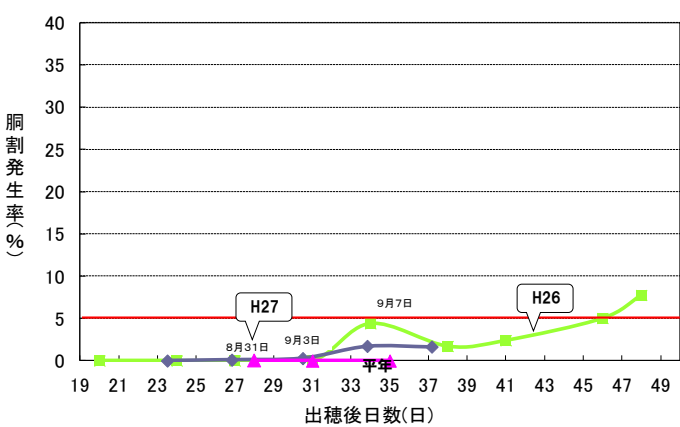
【農試におけるコシヒカリの籾水分】



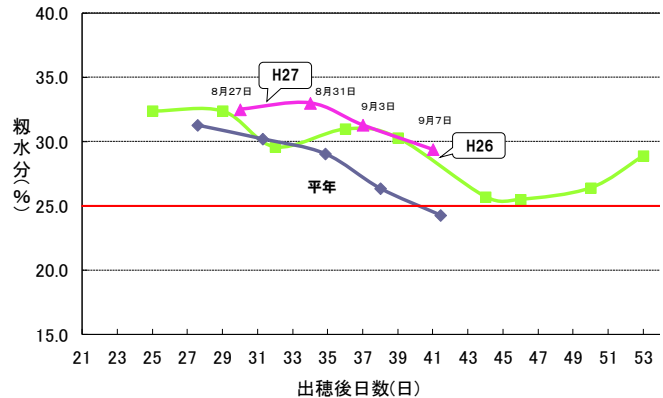
【農試におけるコシヒカリの青籾残存率】



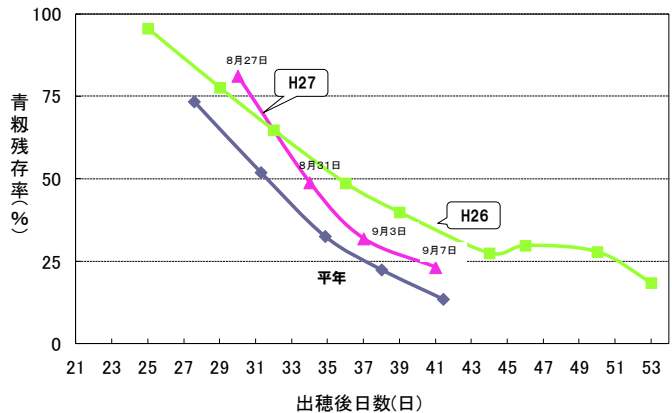
【農試におけるコシヒカリの胴割粒率】



【農試におけるあきさかりの籾水分】



【農試におけるあきさかりの青籾残存率】



- ・農試コシヒカリ 5月20日植 あきさかり5月2日植
- ・籾水分は平年より高めに推移。
- ・出穂期が8月3日のコシヒカリの成熟期は9月11日頃。

品種	出穂期	出穂期以降の積算温度に基づく収穫予想日
コシヒカリ	8月3日	9月11日
あきさかり	7月28日	9月7日

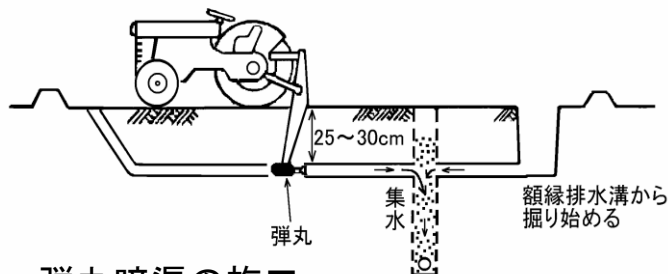
作 業	作業の注意点
圃場準備(排水対策)	・排水口（水尻落とし口）は水稻の水管理で高いことが多い。必ず額縁排水溝の底面より下になるよう掘り下げ、スムーズに水が流れ落ちるようにする。 ・額縁(周囲)排水溝を水稻刈取後できるだけ早く、25～30cmの深さの溝を設置し、圃場の乾燥に努める。 ・サブソイラ補助暗渠の施工は、額縁排水溝設置後すぐに行う。深さ25～30cmで額縁排水溝と連結し、本暗渠と直交に施工する。補助暗渠の施工は、大麦作だけでなく、後作の大豆作やそば作の排水対策にも有効である。 ・サブソイラ施工間隔は通常2～4m。排水が悪い圃場は1.5～2mを目安とする。 ・サブソイラ施工時は額縁排水溝底から引くように施工する。本暗渠と直行方向だけでなく、平行方向にも補助暗渠を設置すると一層排水効果が高まる。また大豆作においてかん水能率も高まる。 ・圃場内排水溝の深さは25～30cm、間隔は3～5m（畝幅）とする。圃場の排水性、播種作業、後作の大豆等の播種作業幅も勘案して施工間隔を決める。 ・暗渠がない場合やサブソイラの施工ができない場合は明渠の数を多くし排水に努める。 ・枕地の畝を作った場合には、畝を切って圃場内部から直接排水口に繋がる排水溝を必ず追加する。



・トレンチャーによる額縁排水溝の設置



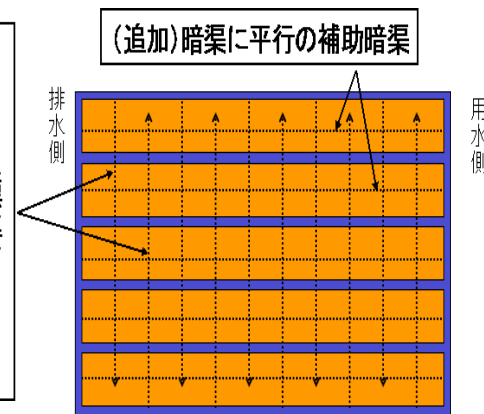
・排水溝が高い場合は畦畔を切り排水する



・弾丸暗渠の施工



暗渠と交差した補助暗渠
(標準)



大豆

作 業	作業の注意点									
病虫害防除	<table border="1" data-bbox="416 264 1970 639"> <tr> <th data-bbox="416 264 779 309">病虫害</th><th data-bbox="779 264 1970 309">防 除</th></tr> <tr> <td data-bbox="416 309 779 357">ハスモンヨトウ</td><td data-bbox="779 309 1970 357">平年よりやや多く、前年並み。白くすけて見える白変葉や若齢幼虫が見られたら直ちに防除を行う。</td></tr> <tr> <td data-bbox="416 357 779 444">フタスジヒメハムシ</td><td data-bbox="779 357 1970 444">平年より少なく前年並み。8月下旬に第2世代成虫の防除を行っていない圃場は、9月上旬までに防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。</td></tr> <tr> <td data-bbox="416 444 779 639" rowspan="2">カメムシ類</td><td data-bbox="779 444 1970 531">平年よりやや多く、平年並み。圃場への侵入が多くなる子実肥大終期(9月中旬頃)に防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。</td></tr> <tr> <td data-bbox="779 531 1970 639">〔 9月中旬(発生盛期)に100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。 〕</td></tr> </table> ・ 薬剤は最寄りのＪＡで取扱いの薬剤を御確認ください。	病虫害	防 除	ハスモンヨトウ	平年よりやや多く、前年並み。白くすけて見える白変葉や若齢幼虫が見られたら直ちに防除を行う。	フタスジヒメハムシ	平年より少なく前年並み。8月下旬に第2世代成虫の防除を行っていない圃場は、9月上旬までに防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。	カメムシ類	平年よりやや多く、平年並み。圃場への侵入が多くなる子実肥大終期(9月中旬頃)に防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。	〔 9月中旬(発生盛期)に100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。 〕
病虫害	防 除									
ハスモンヨトウ	平年よりやや多く、前年並み。白くすけて見える白変葉や若齢幼虫が見られたら直ちに防除を行う。									
フタスジヒメハムシ	平年より少なく前年並み。8月下旬に第2世代成虫の防除を行っていない圃場は、9月上旬までに防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。									
カメムシ類	平年よりやや多く、平年並み。圃場への侵入が多くなる子実肥大終期(9月中旬頃)に防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。									
	〔 9月中旬(発生盛期)に100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。 〕									

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

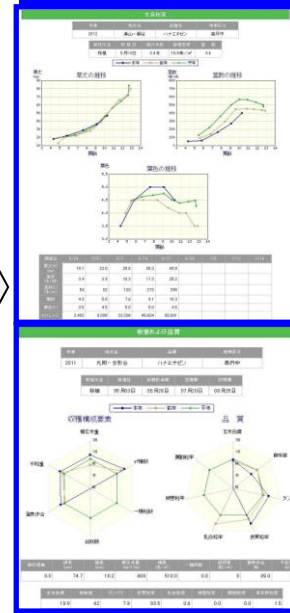
①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報→稲作情報システム



②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択



③生育状況、収量、品質のグラフを表示



福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

【天気予報】

9月8日11時発表

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

日付	9 水	10 木	11 金	12 土	13 日	14 月	15 火
福井県	雨時々止む	曇	曇	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴	晴時々曇
降水確率(%)	60/60/80/80	40	40	30	30	30	30
信頼度	/	/	C	C	C	C	B
最高(℃)	26	29 (26~32)	27 (24~30)	26 (23~29)	27 (24~30)	27 (23~28)	27 (23~29)
最低(℃)	20	21 (19~23)	21 (19~22)	20 (18~22)	19 (17~22)	19 (16~22)	18 (15~22)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス

秋の田起こしによる おいしい米づくり を推進しています

Point

- 1 気温が高い10月中に実施**
土中にすき込み、稲わらの腐熟を促進
- 2 田起こしはゆっくり、深さ15cmを確保**
速度は歩く速さの1/4が目安 今ある機械で実践可能
- 3 有機物・ケイ酸の補給**
稲わらの腐熟により有機物やケイ酸が増え、地力UP

深く起こすと根の張りが良くなり、反収が多く、品質の良い米ができるよ。



収穫時の根の状態

耕うんの深さ
9cm



↓
耕うんの深さ
15cm



反収アップで
収入増!!

反 収

約530kg



約580kg

胴割発生減で
品質向上!!

胴割発生率

約13%



約1%

10月中の秋起こしを完了できるよう計画的に作業を進めましょう。

お問い合わせは福井県嶺南振興局農業経営支援部まで